

## 声をあわせて読む気分は最高

日の出町立平井小学校教諭 木庭和雄

### はじめに／はじめての1年生

「はじめての1年生です。よろしくお願ひします」と担任が挨拶する。子どもたちもすかさず「わたしたちもはじめての1年生です」と返してくる。そんな光景を思わせるすてきな出会いから始まった。ひらがなが「読めない、書けない」1年生をどう導いていったらよいのだろうか、真剣に悩み始めた。この悩みは、「絵本」の読み聞かせと「わらべうた」あそびを実践していこうとする姿勢を生んだ。

本稿は、国語科・童話『くじらぐも』の授業実践から、「声をあわせて読む気分は最高」との実感を得るまでの経過を述べていきたい。

### 教諭の自己変革

1年生の担任となり、挑戦してきたのが「絵本」と「わらべうた」である。

絵本は、母親と子どものコーナーと思い込んでいた。「めがねうさぎ」(せなけいこ作・絵)を読んで一変した。とにかくおもしろい！子どもたちにも大好評だった。子どもたちの真剣に聞き入る顔と喜ぶ顔が見たくて、学校の図書館や地域の図書館で「これはおもしろそうだ」という絵本をさがすのが日課となった。これまでに200冊以上は読んできた。今も続いている。

わらべうたは、音楽の先生の授業で取り上げられ、子どもたちにも好評であった。遊びながら、クラスの仲間とふれあう契機となった。夢中になって遊んでいるうちに「手のぬくもり」が伝わってくるのである。縁なしと思っていたのだが、「わらべうた」研修会にも参加していた。

自分の新たな歩みとなっているのが「絵本の読み聞かせ」と「わらべうたあそび」なのである。

### 声を出して読むことは最高だよ

#### 1. 「詩」の群読

教科書掲載の詩「はしるのだいすき」「しっほ」と声をそろえて読むと、とても楽しくなる感覚を味わった。しかし、しばらくすると飽きてきた。そこで探し出したのが「さかなやのおっちゃん」「けんかならこい」であった。「お風呂で暗唱した詩を読んでもくれますよ」と、ある母親の声。子どもたちは暗唱するくらいに「もう一度」を要求してくる(今でも続いている)。全員で声をあわせて読む楽しさ(それも暗唱していえる楽しさ)を味わってしまったのである。

#### 2. 童話「くじらぐも」の授業

この作品の作者、中川氏は「皆で心をついにし、声をあわせて読むときの気分は格別です。ぜひとも……つかえたり、ひっかかったりしないで、すらすら読めるように」工夫したと述べている。

10月、子どもたちは夏の課題として全文視写した「おむすびころりん」を軽快なリズム

にのって声をそろえて群読できるようになった。11月、学芸会での劇「11ぴきのねこ」では、歌とともに動作化して表現する楽しさを体感してきた。

「くじらぐも」の授業では、全員で声をそろえて読む、グループで読む、役割分担して読む活動形態をとってきた。作者のいう「皆で心をつにし、声をあわせて読む格別な気分」を味わったのである。

#### 全員参加の授業の創造（「どんな劣等生も優等生にしてみせる」）

ひらがなが書けない、読めない子がいる。お腹が痛いと逃げてしまう子がいる。一言もしゃべらない子がいる。人前にでるのをいやがる子がいる。あっというまに学習が済んでしまう子がいる。「ひとりを大切にする授業」（あなたのために私がいる）とは、全員が参加できるよう指導の手立てを創造することである。劇化したり、先生役の子に続けて読んだり、楽しい詩を紹介したり、みんなの前でいっぱい褒めてあげたりすることである。今後も、「創造という言葉の実感とは、自己の全存在をかけて、悔いなき仕事を続けた時の自己拡大の生命の勝ちどきであり、汗と涙の結晶である」との言葉を体感できるよう挑戦していきたい。